

差別のない明るいまちに

人権センター(大路二) ☎563-1177、☎563-7070

インターネットと部落差別の現実

「書き込み＝真実」ではありません

普段、インターネット(以下、ネット)のニュースやSNS(ソーシャル・ネットワーク・キング・サービス)のコメント欄、掲示板サイトなどを閲覧になりますか。また、コメントや書き込みを見て、「世の中にはこんな意見が多いのか」と思うことはありませんか。ネットのニュースを見る人の約5割が、コメント欄を見るとい調査結果もあり、多くの人が世の中の意見を知る上で、参考にしていくことがうかがえます。ただ、書き込みの中には、偏見や不確かな情報も入り混じっており、注意が必要です。

増え続けるネット上の人権侵害

今年4月に法務省が発表した「平成31年及び令和元年における人権侵害事件の動向について」という調査によれば、昨年、ネットを利用した人権侵害事件は1,985件で、ここ10年では平成29年に次いで過去2番目に多い件数になっています。

具体的な事例には、

- ・ 掲示板に、部落差別を助長する目的で、具体的な地名や人物名を書き込む
- ・ 同和問題の解決のため、熱心に取り組んでいる人や団体・関係機関を、誹謗中傷する書き込みをする
- ・ 部落差別に関する書き込みも少なくありません。

デマや偏見が固定してしまう危険性

ある人権研究所が、ネットの質問サイトで「同和」の単語を検索すると、約7,800

件の質問があり、そのうち上位1,000件を分析したところ、次の3つの質問が占めていました。

- ・ 「部落差別は今もあるのですか?」や、「被差別部落の歴史を教えてください」といった、知識を問う質問
- ・ 「部落って怖い地域なのですか?」や、「部落の人は部落外の人とは結婚できないのですか?」など差別や偏見が払拭できていない質問
- ・ 結婚差別・身元調査・土地差別についての深刻な相談

注意すべきは、質問に対するベストアンサーの7割が、差別や偏見に基づく誤った認識の回答だったということ、さらにそのいくつかもついていたことでした。

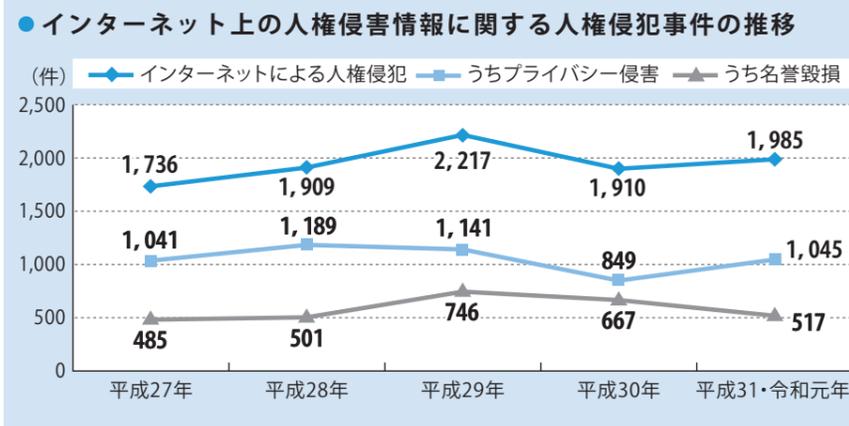
同和問題についての質問に、偏見や差別意識を助長する回答がなされ、多くの人が「いいね」と評価したため、それが同和問題の一般的な考え方だとして、定着してしまう危険が生じています。

ネット上の差別をどう止めるか?

ネットは私たちの生活を快適で便利にする道具であり、それ自体が差別や偏見を生み出すわけではありません。ただし、使い方によっては他人を傷つけたり、不幸に陥れ、可能性があるので、ネットを使う人には、一定のモラルが求められます。

①情報の受け手として

誰でも情報発信ができるからこそ、ネット上の情報を、鵜呑みにしないこと



犬・猫と新型コロナウイルス

新型コロナウイルスに感染した人から犬、猫が感染したと考えられる事例が報告されていますが、現段階で飼育しているペットから人に感染した事例は報告されていません。他の動物由来感染症の予防のためにも、接触した後は流水での手洗い、アルコール消毒などを行うように心がけましょう。



9月20日(日)～
26日(土)
動物愛護週間

人も動物も幸せに

生活安心課(1階)

☎561-2340、☎561-2479

犬や猫など、ペットを飼う人が増えていくとともに、ペットに係る近隣トラブルも増えています。また、毎年数多くの犬や猫が殺処分されています。

そのような中、令和2年6月1日に、改正動物愛護管理法が施行され、動物への虐待に対する罰則も強化されました。いま一度、人と動物が幸せに共生できる社会を考えましょう。

気をつけよう 飼い主のマナー

● 犬の登録・注射を必ずしましょう

生後91日以上の飼い犬は、住んでいる市町村への登録と、年1回の狂犬病予防注射の接種が義務付けられています。



● 犬の放し飼いは絶対にやめましょう

放し飼いやノーリードでの散歩は、他人の敷地にふん尿をしたり、犬自身が交通事故などに遭う危険性が非常に高くなります。

● 不妊去勢手術をしましょう

飼い主のいない動物を増やさないように、適切な措置をしましょう。



● 野良猫への無責任なえさやりはやめましょう

繁殖につながるだけでなく、繁殖には近隣トラブルにまで発展することもあります。野良猫を増やさないようにしましょう。

「イエローチョーク作戦」にご協力ください

市では、犬のふん害対策として、道路などに放置されたふんの周囲をイエローチョークで囲み、発見した日時を書く「イエローチョーク作戦」を開始します。この作戦は、犬のふんで困っている人がいることを知ってもらい、繰り返し行うことで自発的に犬のふんを回収するように促すものです。初回のみ、生活安心課(1階14番窓口)でイエローチョーク1本を配布しますので、皆様のご協力をお願いします。



災害時の対策をしておこう

ペットの避難用品を備えましょう。

ペットの避難用品(例)

- ・ クレートかケージ
- ・ 常備薬
- ・ 3～5日分程度のえさと水
- ・ 予備のリード、首輪
- ・ ペットシーツなどのトイレ用品
- ・ ワクチン接種状況や健康状態が分かるもの
- ・ (犬の場合)鑑札や狂犬病予防注射済票など

身の回りを見直して、物が落下しそうな場所など、人間・ペット共に危険な箇所がないか確認しておきましょう。